

# 次期長野県食と農業農村振興計画(素案)の概要

## 第1章 計画策定の基本的な考え方

- 1 策定の趣旨  
「長野県食と農業農村振興の県民条例」の基本理念を踏まえ、食と農業・農村の持続的発展を目指し、方向性を指し示す。
- 2 策定年月日  
平成30年3月(予定)
- 3 計画期間  
平成30年度～34年度(5年間)
- 4 計画の進行管理  
毎年度、進捗状況について、食と農業農村振興審議会及び地区部会から意見聴取の上、県議会に報告し公表
- 5 計画の推進  
県の取組に加え、市町村、農業団体、食材を扱う事業者の主体的な「参画」と、県民(農業者、消費者、住民)、関係機関・団体の「協働」を基本姿勢として、それぞれが責務・役割をもって一体となり計画を推進

## 第2章 食と農業・農村をめぐる情勢

### 【社会情勢の変化】

- 国際化の進展
- 人口減少社会への対応
- 情報収集・発信の多様化と価値観の変化
- 全国的な農業・農村に対する発想の転換
- SDG's(持続可能な開発目標)の取組
- 地球温暖化への対応

### 【現状と課題】

- 農業者の減少と高齢化が進んでいる
- 農業者の高齢化等に伴い経営の縮小や廃業が進んでいる
- 中山間地等の狭小で不整形な農地の担い手への集積が進んでいない
- 人口減少による食料消費の減少が予測され、価格等への影響が懸念
- 飲食店や旅館など県内実需者の県内農畜産物への関心の高まり
- 両親の共働きなどによる子供の食の貧困化
- 用排水路などの農業水利施設等の老朽化
- 農村住民の減少による地域コミュニティ活動と多面的機能の低下

## 第3章 食と農業・農村の振興に関する施策の展開方向

基本目標 : ※別紙

### 基本方向1 次代へつなぐ信州農業

- 1 次代を担う経営体の育成と人材の確保・育成
  - ア 企業マインドで信州農業を支える中核的経営体の育成
  - イ 中核的経営体を支える雇用人材の安定確保
  - ウ 将来の信州農業を担う新規就農者の確保・育成
  - エ 地域農業を支える多様な農業経営体等の確保・育成

- 2 消費者に愛され信頼される信州農畜産物の生産
  - ア マーケットニーズに応える競争力の高い県産農畜産物の生産
  - イ 環境農業の推進と農畜産物の安全性の確保
  - ウ 次代を拓く新品種・新技術開発と普及活動の展開
  - エ 稼ぐ農業を支える基盤整備の推進

- 3 需要を創出するマーケティング
  - ア おいしい信州ふーど(風土)の取組による県産農畜産物の魅力発信
  - イ マーケットインによる農畜産物の需要創出
  - ウ 世界に求められる県産農畜産物の戦略的な輸出促進
  - エ 稼ぐ6次産業化ビジネスの展開

### 基本方向2 消費者とつながる信州の「食」

- 1 本物を味わう食と食し方の提供
  - ア 産地ならではの食べ方と地域食材の磨き上げ
  - イ 食の地産地消と農産物直売所機能の強化

- 2 しあわせな暮らしを支える豊かな食の提案
  - ア 未来を担う子どもたちへの食育の推進
  - イ 地域ぐるみで取り組む食育の推進

### 基本方向3 人と人がつながる信州の農村

- 1 持続的な農業生産活動を支える基盤づくり
  - ア 持続的な営農を支え、暮らしを守る農村環境の整備
  - イ 都市住民との協働など皆に理解されて進める多面的機能の維持

- 2 多様な人材の活躍による農村コミュニティの維持
- 3 地域の強みを活かした農村景観や地域資源の活用

## 第5章 重点的に取り組む事項(重点プロジェクト)

【プロジェクト1】  
次代を担う経営体の確保・育成プロジェクト  
・中核的経営体の育成、新規就農者と雇用人材の安定確保への取組

【プロジェクト2】  
農業イノベーション推進プロジェクト  
・技術革新、ICT、カイゼンの拡大など信州農業を革新する取組

【プロジェクト3】  
園芸県長野振興プロジェクト  
・皮ごと種なしぶどうや夏秋いちごなど伸びしろのある品目の拡大などの取組

【プロジェクト4】  
県産農畜産物の輸出拡大プロジェクト  
・県産農畜産物と花きの戦略的な輸出拡大への取組

【プロジェクト5】  
食品産業の県産農畜産物利用拡大プロジェクト  
・県内食品産業の県産農畜産物の利用拡大などの取組

【プロジェクト6】  
コミュニティビジネスによる農村活性化プロジェクト  
・定年退職者や移住者など多様な人材の参画による農村コミュニティ活動への取組

## 第4章 地域別の発展方向

■ 県下10地域ごとの特性を踏まえた将来の発展方向、将来目標、具体的な取組内容を記した地域計画

### 【佐久】

- 南佐久の大規模露地野菜経営体における外国人材を含む雇用労働力の安定確保
- 農業者の高齢化等による生産の減少が危惧される果樹、花き、野菜の果菜類の担い手の重点確保
- 農産物直売所の機能強化による軽井沢などのホテル等への地元食材を供給する体制づくり

### 【上田】

- 年間降水量が少なく、日照量が多いという地域の優位性を活かして、耕作放棄地の活用などによるワイン用ぶどう団地の整備
- 何でも作れるという強みを活かして、温泉旅館等へのあらゆる地域食材の供給など農産物直売所機能の強化

### 【諏訪】

- 野菜の施肥軽減技術の導入など諏訪湖と地域住民に理解される環境にやさしい農業の推進
- 避暑に訪れる都市住民に対する農産物直売所等による交流活動の推進

### 【上伊那】

- 全国に先駆けて組織化された集落営農組織の人材確保と体質強化による経営発展
- リニア新幹線開通を見据えた農泊による都市農村交流の推進

### 【南信州】

- 市田柿の生産拡大と、市田柿生産者の経営の強化
- リニア開通を見据えた移住・定住の促進などによる都市住民の農村への誘致

### 【木曾】

- 御嶽はくさいの作業支援体制の構築と更なる経営改善を推進
- 和牛繁殖センターの利用促進及びET子牛の供給による木曾子牛生産者の支援
- すんきのGI取得により、一層のブランド力向上を図るとともに、木曾地域連携による安定出荷体制の構築を支援

### 【松本】

- レタス、すいか、ながいも等地域ブランドの生産安定とワイン用ぶどうの生産拡大
- 長果25(シナリップ)や夏秋いちご等の伸びしろのある品目の生産拡大と新規栽培者の確保
- 農産物直売所を核とした旅館・ホテル等への地元食材の供給体制の構築

### 【北アルプス】

- 酒米の品質向上に向けた栽培方法(深水管理等)の実証、新品種の試作・普及
- マーケットニーズに即した北アルプス山麓育ちの農産物の生産と更なるブランド化

### 【長野】

- 新規就農者や定年帰農者など多様な担い手によるぶどう、りんご等果樹の生産振興
- 農商工親連携等による果樹を軸とした地域活性化の推進

### 【北信】

- アスパラガスやきのこ、岳南のりんご・ぶどう等の果樹生産、岳北の良質米生産など地域の強みを活かした生産振興
- きのこの国際水準GAPの取得を推進

## 基本方向 1-1 「次代を担う経営体の育成と人材の確保・育成」に係る主な施策

### ア 企業マインドで信州農業を支える中核的経営体の育成

- 高い経営力の習得や新たな経営改善手法の現場への導入など経営者の資質向上を支援 NEW
- 農地中間管理事業を活用した農地の集積・集約化を支援
- 基盤整備など生産効率の高い条件整備を支援
- 経営安定に向けた経営の複合化・効率化を支援
- 経営の体質強化に向けた法人化を支援

#### 【達成指標】

項目	平成28年度	設定の考え方
中核的経営体数	8,415経営体	将来にわたり本県農業生産を維持・発展させるため、次代を担い、本県農業を支える中核的経営体を確保する。
法人経営体の数	958経営体	経営継承による営農の継続、経営発展等を図るため、法人経営体を育成する。
担い手への農地の集積率	41%	中核的経営体(担い手)における作業の効率化、低コスト化を実現するため、農地の利用集積を促進する。

### イ 中核的経営体を支える雇用人材の安定確保 NEW

- 意欲の高い就業者(従業員)の確保及び資質向上を図るための体制整備を支援
- 農繁期の臨時雇用者の確保に向けた産地ごとの体制整備を支援
- 生産現場にあった外国人技能実習生の受入を支援
- 障がい者や高齢者など多様な人材の雇用を支援

#### 【達成指標】

項目	平成28年度	設定の考え方
農業法人等への就業者数 (単年度・新規)	113人	法人等が規模拡大を図りながら持続的に経営を進めるため、安定的に雇用就業者を確保する。

### ウ 将来の信州農業を担う新規就農者の確保・育成

- 生産基盤を持ち早期に経営確立が可能な農家子弟の経営継承への誘導・支援 NEW
- 教育委員会等と連携した農業高校生の将来の就農に向けた活動を支援 NEW
- ステップアップ方式による新規参入希望者に対する就農支援
- 市町村・JA等が連携した研修体制の充実と就農環境整備の支援 NEW
- 新規就農者の経営発展に向けた研修の強化
- 次代の担い手育成・確保に向けた農業大学校の充実 NEW

#### 【達成指標】

項目	平成28年度	設定の考え方
新規就農者数(45歳未満)	224人	中核的経営体の維持発展を図るため、新規就農者数を毎年〇人以上確保する。

### エ 地域農業を支える多様な農業経営体等の確保・育成

- 担い手が不足する地域における集落営農組織の育成を支援
- 持続的な営農活動が展開されるよう既存集落営農組織の法人化を支援
- 福祉分野や建設業など農業分野に参入しようとする企業の円滑な参入を支援 NEW
- 定年帰農者を産地を支える担い手へ誘導する取組を支援 NEW

#### 【達成指標】

項目	平成28年度	設定の考え方
集落営農組織数	327組織	担い手が不足する地域等において、将来にわたり農地を維持管理していくため、多様な農業者が相互に支え合う集落営農組織の育成及び統合を進める。

基本方向Ⅰ—2 「消費者に愛され信頼される信州農畜産物の生産」に係る主な施策

ア マーケットニーズに応える競争力の高い県産農畜産物の生産

【土地利用型作物】

- 効率的な水田農業経営に向けた規模拡大の推進
  - ・ 農地中間管理事業の活用等による規模拡大
- 水田農業経営の複合化と生産コスト削減による経営体質・競争力の強化
  - ・ 地域に適した加工・業務用野菜の導入や、麦・大豆・そばへの作付誘導による「主食用米+α」の取組を推進
  - ・ ICTの活用や省力化技術の導入等による生産コストの削減
  - ・ カイゼン手法を活用した生産工程の見直し・最適化 NEW
- 県オリジナル品種の生産拡大とブランド力向上
  - ・ 「風さやか」の生産拡大と技術対策の徹底等による良質米の生産推進
  - ・ 機能性や加工適性等に優れた「麦・大豆・そば」の県オリジナル品種の生産拡大・安定供給
- 優良種子の安定供給
  - ・ 優良品種の選定や県オリジナル品種などの優良種子の安定供給

【達成指標】

項目	平成28年度	設定の考え方
効率的な水田農業経営体数とその面積シェア	617経営体 34.6%	競争力のある経営体が主体となった水田農業を推進するため、効率的な生産が可能な5ha規模以上の水田農業経営体を育成する。
実需者ニーズの高い県オリジナル品種の普及面積(米・麦・大豆・そば)	2,003ha	多様化する消費者・実需者ニーズに対応するため、独自性・強みを持つ県オリジナル品種の生産を拡大する。

【果樹】

- 新技術・新品目等を核とした果樹経営体の核となる「稼ぐ・攻める」力の増強
  - ・ りんご高密度植・新しい化栽培など省力的な新技術の導入促進と県オリジナル品種生産拡大
  - ・ 県オリジナル品種等のリレー出荷促進、冷蔵施設の導入支援
- 全国屈指の果樹生産を支える産地の維持・発展
  - ・ りんごフェザー苗、ワイン用ぶどう苗木等の計画的な生産体制
  - ・ 農地中間管理機構を活用した樹園地の継承 NEW
- 消費者の期待に応える商品づくりと海外展開
  - ・ 加工業務用・輸出仕様による栽培の拡大 NEW

【達成指標】

項目	平成28年度	設定の考え方
果樹オリジナル主要品種等の栽培面積	1,763ha	既存オリジナル6品種(シナスイート、シナゴールド、秋映、シトルチエ、ナガノパープル、シャインマスカット、サザンスイート)に加え、新たな3品種(りんご長果25、ブドウ長果11、スモモ長果1)の早期産地化を図るため、栽培面積を拡大させる
りんごの高密度植・新しい化栽培の栽培面積	227ha	早期成園化・多収化を図るため、高密度植栽培等の導入面積を拡大させる

【野菜】

- 露地野菜産地の計画生産の推進と作柄の安定
  - ・ 夏秋期シェアの高い品目の安定的計画生産と契約取引の推進
  - ・ 土地利用型法人、集落営農組織による水田を活用した加工・業務用野菜等の拡大
- 施設栽培の推進による高品質な果菜類等の生産拡大
- 中山間地域の立地条件に適した野菜品目の選定と生産拡大 NEW
  - ・ 直売所向け品目の周年出荷・少量多品目栽培の拡大

【達成指標】

項目	平成28年度	設定の考え方
夏秋期のレタス、はくさい、キャベツの全指定産地出荷量に占める契約割合	36.1%	国内農産物市場規模が縮小する中で、安定的な販路を確保するため、契約取引割合を増加させる。

基本方向 I—2 「消費者に愛され信頼される信州農畜産物の生産」に係る主な施策

ア マーケットニーズに応える競争力の高い県産農畜産物の生産

【花き】

- 高収量・高品質化及び適期出荷対応技術を活かした「稼ぐ」生産技術の導入・普及
  - ・ 需要ピークに合わせた計画生産や夏秋期の鮮度保持対策の強化
- 多様なニーズに対応した花き生産の推進と需要の創出NEW
- 世界トップレベルと評価される県産花きの輸出の促進NEW
- 担い手の確保と経営安定強化

【きのこ】

- きのこ経営体の経営管理力の強化
- 生産コストの一層の削減による経営安定
  - ・ 生産性の高い品種・高生産性培地の導入
  - ・ 害虫発生予測を活用した防除技術の普及
- 安心・安全・環境対策の推進 一部NEW（J-GAP等取得推進）
- 消費者視点での需要の創出・拡大対策の推進

【畜産】

- 先端技術の導入と効率的な分業システムの構築等による生産性・ブランド力の向上 NEW
  - ・ ゲノミック評価システムやICT技術の導入・活用
- 国際規格の導入と環境に配慮した持続可能な畜産の推進
- 魅力ある経営とゆとりの創出
- バイオセキュリティの対策徹底

【達成指標】

項目	平成28年度	設定の考え方
信州プレミアム牛肉認定頭数	3,477頭	県外食肉市場での新規認定に加え、高い市場ニーズに応えるため、年間100ずつの増頭を目指す

【水産】

- 実需者のニーズに応える信州ブランド魚の高品質で安定的な生産
  - ・ 生産・消費のニーズに応える稚魚の増産と安定供給
- 信州ブランド魚等の使用機会を増やすための水産加工品の開発と流通形態の検討 NEW
  - ・ 冷凍加工技術の開発
- 「釣り」を核として地域活性化につなげる魅力ある漁場づくり NEW
  - ・ 観光資源として誘客する取組を推進
- 諏訪湖の漁場への対応

【達成指標】

項目	平成28年度	設定の考え方
信州ブランド魚の生産量 (信州サーモン・信州大王イワナ)	376t	稚魚供給量を増やすため、水産試験場の施設整備を行い、安定的な食用魚の生産を図る。

## 基本方向 I—2 「消費者に愛され信頼される信州農畜産物の生産」に係る主な施策

### イ 環境農業の推進と農畜産物の安全性の確保

#### 【環境農業】

- 国際基準に対応したGAP(農業生産工程管理)認証の取得を推進
- 地域ぐるみでの環境農業の取組拡大
  - ・ 産地の実情に即した環境農業の推進
  - ・ IPMや施肥管理技術等の環境農業技術の主要産地への導入推進
- 環境農業に対する消費者理解の醸成と地域内流通の拡大

#### 【達成指標】

項目	平成28年度	設定の考え方
国際水準GAPの取得件数	14件	国際的な取引拡大への確に対応するため、国際水準GAP取得件数を現状の3倍に拡大する。

#### 【県産農畜産物の安全安心】

- 消費者や実需者の信頼を確保するための県産農畜産物の安全安心への取組
  - ・ 農薬の適正使用の推進
  - ・ GAPの推進による農産物の安全性確保
  - ・ 畜産GAP、農場HACCPによる持続可能な畜産の推進
  - ・ 動物用医薬品・家畜飼料の適正使用の推進
  - ・ 人獣共通感染症の発生防止
  - ・ 食品表示の適正化の推進

### ウ 次代を拓く新品種・新技術開発と普及活動の展開

#### 【技術研究】

- 本県の強みある研究力を活かした信州農業を革新する新品種・新技術の開発
  - ・ 生産者から消費者まで幅広く評価される魅力あるオリジナル品種の育成
  - ・ 化学合成農薬に依存しない高品質安定生産技術の開発
  - ・ 産学連携による先進的な農業技術の開発
  - ・ 将来的な地球温暖化に対応した技術開発
- 生産現場の課題を解決する技術開発の推進
  - ・ 高位安定生産のための品種改良・技術開発
  - ・ 低コスト・省力・軽労化のための技術開発
- 農業分野の知的財産権の保護・活用の取組

#### 【普及】

- 試験研究機関と連携した開発された技術の迅速な現地普及を推進
- 革新的農業技術の確立と現地普及を推進
- 農業・農村を担う多様な担い手の確保・育成を支援
- 市町村や農業者団体と連携し、農業現場における課題解決を支援

## 基本方向 I—2 「消費者に愛され信頼される信州農畜産物の生産」に係る主な施策

### エ 稼ぐ農業を支える基盤整備の推進

#### ● 基幹的農業水利ストックの適切な保全管理

- ・ 基幹的農業水利施設の機能保全計画策定を推進
- ・ 機能保全計画に基づく計画的な更新整備や長寿命化対策を実施
- ・ 揚水機場や水路橋など重要構造物の耐震化対策を実施

#### ● 収益性を高める農地の条件整備

- ・ 導入作物に適應した畑地かんがい施設の整備やかん水方式の改良を推進
- ・ 水田における園芸作物の導入など高度利用に向けた排水対策を推進
- ・ りんご高密度植・新しい化栽培等の導入など果樹の改植を促進するための樹園地の再整備を推進

#### ● 効率的な生産のための農地の条件整備

- ・ 労働生産性の向上に向けた農地の集約や区画拡大・畦畔除去を推進
- ・ 用水管理の省力化に向けたパイプライン化やゲートの自動化を推進
- ・ 樹園地へ機械導入を可能とする傾斜改良など農地の条件整備を推進

#### 【達成指標】

項目	平成28年度	設定の考え方
農業用水を安定供給する重要な用排水施設の整備箇所数	—	農産物の生産に必要な農業用水を安定供給するため、期間内に整備する頭首工、用排水機場、水路トンネル、水路橋、サイホン等の重要構造物の整備箇所数

## 基本方向 I—3 「需要を創出するマーケティング」に係る主な施策

### ア おいしい信州ふーど(風土)の取組による県産農畜産物の魅力発信

- 「おいしい信州ふーど(風土)」の枠組みを再編・拡充し、県民運動を強化
- 「プレミアム」、「オリジナル」、「ヘリテイジ」の厳選基準の再編による対象品目のブランド化を推進
- おいしい信州ふーど(風土)大使・公使・名人によるあらゆる手法での県産農畜産物等の情報発信を展開
- おいしい信州ふーど(風土)SHOP登録店との連携による戦略的な魅力発信 NEW

#### 【達成指標】

項目	平成28年度	設定の考え方
「おいしい信州ふーど(風土)」SHOP登録数	1,298店舗	県産農畜産物の魅力向上を図るため、「おいしい信州ふーど(風土)」を取扱うSHOPの登録店舗数を拡大する。

### イ マーケットインによる農畜水産物の需要創出

- 関係団体等と連携し、品目ごとの強みを活かした販売戦略(ターゲット・売り方)を展開
- 県オリジナル品種などの特性を活かした「新たな需要創出」を推進 NEW
- 農業者などの営業スキルの向上を支援
- 県内外における多様な実需者とのマッチングを支援

#### 【達成指標】

項目	平成28年度	設定の考え方
県が主催する商談会における農業者等の成約件数	208件	農業者と食品産業等との戦略的なマッチングを図るため、商談会での成約件数を毎年〇〇件確保する。

- 多様な実需者ニーズに対応した流通機能の強化
  - ・ 新鮮で安全・安心な農産物を実需者や消費者に届ける卸売業者のコールドチェーン整備等を支援
  - ・ 直売所の連携などによる少量多品目流通・地域内流通の体制の構築を支援NEW

### ウ 世界に求められる県産農畜産物の戦略的な輸出促進

- 需要が高い輸出品目や対象国の重点化による販路と輸出量の拡大
- 有望海外バイヤーとの更なる信頼強化による長期・安定取引の推進
- 観光や県内食品産業との連携による「長寿世界—NAGANOの食」の海外での販売・PR活動の展開

#### NEW

【達成指標】項目	平成28年度	設定の考え方
県産農畜産物・花きの輸出額	農畜産物 523,439千円 花き 40,217千円	東南アジア等を中心に需要が高い県産農畜産物等(ぶどう・りんご他)の輸出量拡大を図り、輸出額20億円をめざす。

### エ 稼ぐ6次産業化ビジネスの展開

- 6次産業化事業者の人材育成や経営マネジメント力、製造技術など体質強化に向けた取組を展開
- 6次産業化事業者に対する最新の情報提供や推進員などによる相談対応などフォローアップを展開
- 大規模な6次産業化事業体の構築のため、農業者と企業体の連携を支援NEW

## 基本方向 II 「消費者とつながる信州の『食』」に係る主な施策

### 1 本物を味わう食と食し方の提供

- <<つなぐ>>産地ならではの食べ方と地域食材の磨き上げ
  - ・ 県調理師会や栄養士会などと連携した調理師専門学校や若手シェフ、栄養士への食の“地消地産”の理解促進
  - ・ 産地ならではの地域食材や伝統食・郷土料理の情報発信と伝承を支援
- <<とどける>>農産物直売所機能の強化 NEW
  - ・ 農産物直売所を起点とした地域内流通体制の構築を支援
  - ・ 県内の直売所の連携による地域特産物の流通体制の構築
  - ・ 給食現場で活用できる一次加工品の製造と供給体制の構築を支援NEW
- <<つかう>>食の“地消地産”の推進
  - ・ 県内のホテル・旅館等で使われる食材の県内産への「置き換え」を推進
  - ・ 農産物の一次加工品の学校給食や福祉施設等への利用促進
  - ・ 地域DMOとの連携により、宿泊・飲食事業者等に対する県産食材の利用促進 NEW
- <<ひろがる>>民間企業との連携による地消地産の推進
  - ・ 量販店等との連携による地産地消キャンペーンの推進
  - ・ 「おいしい信州ふーど(風土)」大使・公使・名人等の知見を活用した魅力発信

#### 【達成指標】

項目	平成28年度	設定の考え方
売上高1億円以上の農産物直売所数及び売上総額	52件 15,149百万円	食の“地消地産”の推進を図るため、機能強化する主な農産物直売所の数及び総売上額を拡大する
県産食材提供施設数	—	県産食材の提供に取組むことを宣言した宿泊・飲食業等の施設数を拡大する

### 2 しあわせな暮らしを支える豊かな食の提案

- <<まなぶ>>未来を担う子どもたちへの食育の推進
  - ・ 学校管理栄養士との連携による学校給食を通じた食育を支援
  - ・ 授業による農業体験など学校で取り組む食育を支援
  - ・ 「給食だより」などを活用した学校や家庭への食材の情報提供やマナーの啓発等の食育を支援
  - ・ 市場、集荷場、ライスセンターなどの農業用施設や疎水、ため池などの役割の理解促進 NEW
  - ・ 地域で展開されている「こども食堂」の取組を支援 NEW
- <<つづける>>地域ぐるみで取り組む食育の推進
  - ・ 県民の健康を促進させる「信州ACE(エース)プロジェクト」を積極的に推進
  - ・ 健康長寿県を支える食に関する情報の発信
  - ・ 食品ロス削減等環境に配慮した県民意識の向上を推進 NEW
  - ・ 疎水やため池などの役割・物語を地域住民に紹介し、多面的機能を再認識 NEW
  - ・ 直売所を活用した消費者への食育活動を支援
- <<かんじる>>農作物をつくる体験を通じての食育の推進
  - ・ 滞在型旅行「農泊」により、農業の位し体験を通じた食育の推進 NEW
  - ・ 市民農園など農作物の栽培を通じて食育が体感できる取組を推進
  - ・ 家庭菜園等をやりたい方が農地を利用できる体制整備を支援

#### 【達成指標】

項目	平成28年度	設定の考え方
学校給食における県産食材の利用割合	45.7%	子どもたちの食への理解を深めるため、学校給食で県産農産物を利用する割合を拡大する



## 基本方向 Ⅲ 「人と人がつながる信州の農村」に係る主な施策

### 1 持続的な農業生産活動を支える基盤づくり

- 地域の特徴を活かした営農ニーズにも対応したきめ細かな農業生産基盤の整備を推進
- 中山間地域農業直接支払事業の取組地域の更なる拡大により地域ぐるみによる営農継続を支援
- 農地中間管理事業を活用した担い手への農地集積と遊休農地の発生防止や再生の推進
- 農業水利施設を守る土地改良区等の人材育成と共同事務化による運営強化を支援
- 老朽化したため池や排水機場の整備及び地すべり防止施設の長寿命化など農村地域の防災減災対策を推進
- 野生鳥獣から農作物を守る地域ぐるみによる効果的な対策を支援
- 多面的機能支払事業の取組拡大により、都市住民との協働による多面的機能の持続的な発揮を支援

#### 【達成指標】

項目	平成28年度	設定の考え方
地域ぐるみで取り組む多面的機能を維持発揮するための活動面積	40,827ha	農村の多面的機能を維持発揮するため、多面的機能支払事業及び中山間地域農業直接支払事業により、期間内に農地や用水路、農道等の保全活動を共同で行う組織の活動面積
耕作放棄地解消面積	991ha	農地の有効活用を進めるため、農振農用地内における再生可能な荒廃農地の解消を目指す。

### 2 多様な人材の活躍による農村コミュニティの維持

- 多様な人々と連携した農村コミュニティの共同活動を支援
- 「農ある暮らし」における移住者や定年帰農者などの定着を確保する取組を支援
- 農村の暮らしを維持する地域運営組織などの農村コミュニティ活動の取組を支援
- 地域が主体となったユニバーサル農業の取組を支援
- 女性農業者等の活躍による農村の活力向上の活動を支援

#### 【達成指標】

項目	平成28年度	設定の考え方
都市農村交流人口	624,909人	都市住民との交流人口を増やすため、地域資源を活用した農村体験などを提供する。
地域おこし協力隊の隊員数	315人	農村コミュニティの維持・強化に資するため、地域外の人材を積極的に誘致し、その定住・定着を図る。

### 3 地域の強みを活かした農村景観や地域資源の活用

- 観光と連携した地域資源を活用した稼ぐ農村ビジネスの取組を支援
- 疏水、ため池、棚田の景観、歴史、文化等の魅力を観光資源として活用する取組を支援
- 地域資源の農業用水を利用した小水力発電を導入する土地改良区等を支援

#### 【達成指標】

項目	平成28年度	設定の考え方
農業用水を利用した小水力発電エネルギーの容量	2,184kW	豊富な農村資源を活用するため、期間内に整備する小水力発電施設の設備容量
新たに観光資源として活用した疏水、ため池、棚田の箇所数	—	疏水等の魅力を観光資源として活用するため、期間内に新たに観光客の受け入れ等を可能として発信した疏水、ため池、棚田の箇所数